食　品

1．評価対象企業（20 社）

ニッスイ、日清製粉グループ本社、山崎製パン、カルビー、森永乳業、ヤクルト本社、明治ホールディングス、日本ハム、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス、サントリービバレッジ＆フード（注）**、不二製油、キッコーマン、味の素、キユーピー、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業**

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）サントリー食品インターナショナルが商号を変更した（2026 年 4 月）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	18
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	8
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	3	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	8
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 19 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**および**ESG 関連**の項目内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.3 点（昨年度 63.1 点）となった。総合評価点の標準偏差は 10.4 点（昨年度 11.2 点）であった。

②　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 64%（昨年度 60%）、**説明会等**が 72%（昨年度 68%）、**フェア･ディスクロージャー**が 81%（昨年度同率）、**ESG 関連**が 58%（昨年度 62%）、**自主的情報開示**が 58%（昨年度 54%）となった。

③　評価項目について見ると、全 12 項目のうち、次の**フェア･ディスクロージャー**の中の 2 項目(a)・(b)の平均得点率が 80%以上となり、高水準であった。

(a)「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 82%〔昨年度 79%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台 6 社・80%台 10 社・90%台 4 社）

(b)「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか」（平均得点率 80%〔昨年度 83%〕）（得点率：50%台 1 社・70%台 6 社・80%台 10 社・90%台 3 社）

④ 一方、次の 2 項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目(a)、**自主的情報開示**の中の 1 項目(b)）は、平均得点率が 40%台以下となり、低水準となった。いずれの項目においても、評価対象企業間の得点率の差が大きい状況が見られており、下位評価企業の改善努力を求めたい。

(a)「社外取締役と株式市場の間の理解を深めることの重要性を認識していますか。また、そうした取組みを実行していますか」（平均得点率 35%〔昨年度 30%〕）（得点率：10%台以下 9 社・20%台 3 社・30%台 2 社・40%台 1 社・60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 1 社・90%台 1 社）

(b)「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか」（平均得点率 49%〔昨年度 48%〕）（得点率：10%台 4 社・20%台 2 社・30%台 2 社・40%台 2 社・50%台 2 社・60%台 3 社・70%台 3 社・80%台 1 社・90%台 1 社）

(2) **上位３企業の評価概要**

第 1 位　味 の 素 （ディスクロージャー優良企業〔3 回連続 5 回目〕、

総合評価点 83.8 点〔昨年度比－1.5 点〕）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉85%）、**フェア･ディスクロージャー**（93%）、**ESG 関連**（84%）が第 1 位、**自主的情報開示**が第 2 位（81%）、**説明会等**が同得点第 4 位（78%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となったほか、「社外取締役との対話」は第 3 位、「IR 部門の機能」が第 6 位となった結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、経営陣が自ら経営方針を決定し、投資家と直接対話を行う積極的な IR 姿勢を評価する声が寄せられた。ROE や ROIC などの指標目標を事業の方向性とともに示し、資本効率を重視した経営を実践しているとの声があった。また、企業価値向上に向けた経営陣の強い意識に加え、具体的な方向性や施策が明確に示されているとの声や、マネジメントが IR 活動を積極的に活用し、投資家との対話を重視しているとの声が寄せられた。IR 部門については、決算取材の場において、IR 部門と事業環境に関する有益な情報交換や建設的なディスカッションが行えることを評価する声や、IR 担当者の高い専門性と対応力を評価する声があった。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、質の高い対話が実現しているとの声も寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビュー等における開示」が第 3 位となった。これに関連して、説明会やインタビューにおける質疑応答では、投資家の求めに最大限寄り添った丁寧かつ誠実な対応がなされているとの声があった。一方、「説明資料等における開示」は同得点第 11 位（昨年度同得点第 3 位）となり、昨年度に比べて得点率が下がった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が同得点第 1 位、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 3 位となり、共に 90%以上の得点率であった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。

⑤ **ESG 関連**においては、3 項目全てが最も高い評価となり、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、従業員エンゲージメントスコアの向上を重点 KPI の 1 つに設定し、定期的に開示している点を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**においては、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」が最も高い評価となった。有益なイベントとして、関東工場（冷凍食品）見学会や電子材料説明会を挙げる声が寄せられた。また、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」は同得点第 6 位となり、これらの結果、この分野において第 2 位となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　アサヒグループホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 77.7 点〔昨年度比－4.6 点〕、昨年度第 2 位〔－昨年度第 2 位〕）

① 同社は、**自主的情報開示**が第 1 位（83%）、**説明会等**（81%）、**ESG 関連**（74%）が第 2 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（75%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 3 位（89%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が第 3 位（昨年度第 2 位）、「経営陣の IR 姿勢」は同得点第 4 位（昨年度第 2 位）、「社外取締役との対話」は第 8 位（昨年度第 4 位）となり、昨年度に比べて 3 項目全ての得点率が下がった。これらに関連して、経営陣が自ら経営方針を決定し、投資家と直接対話を行うなど、IR 活動に主体的に取り組んでいることを評価する声が寄せられた。また、サイバー攻撃という事案はあったものの、IR 活動全体の水準の高さを評価する声があった。なお、システム障害の影響も踏まえ、マネジメントと株式市場との対話や認識の共有について、さらなる改善を望む声もあった。IR 部門の機能については、IR 取材に役員が直接対応するなど、経営陣と IR 部門が連携しながら投資家との対話に取り組んでいることを評価する声や、投資家のニーズに真摯に向き合い、有益かつ建設的なディスカッションが行えることを評価する声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビュー等における開示」は同得点第 1 位となり、昨年度に比べて得点率が大きく改善した。これに関連して、説明会やインタビューにおいては、定量面・定性面の双方から充実した説明や質疑応答が行われていることを評価する声が寄せられた。一方、「説明会資料等における開示」は同得点第 4 位（昨年度第 1 位）となり、昨年度に比べて順位が後退した。これに関連して、地域別・国別の業績動向に関する開示について、特に欧州事業の状況がより詳細に把握できる情報提供の充実を望む声があった。また、システム障害に伴う開示遅延についてはやむを得ないとの理解が示される一方、早期の情報開示体制の正常化を望む声が寄せられた。このほか、開示情報について、欧州企業との比較において見劣りするとの指摘があり、分析に必要な定量情報のさらなる充実を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 3 位、「リモートツールによる情報提供」は第 4 位となり、共に 85%以上の高得点率であった。これらの結果、この分野において同得点第 3 位となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」（第 3 位）が 85%以上の高得点率であった。一方、「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、定性・定量の両面で進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していること」（第 2 位）および「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コストの開示等）、あるべきバランスシート（政策保有、現預金を投資等に有効活用できているかの検証）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」（同得点第 2 位）は、昨年度に比べて得点率が大きく下がった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」が最も高い評価となったほか、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」も第 2 位となり、この分野において第 1 位となった。

同社は、3 回連続して第 2 位の評価を受けたので、**「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」**に選定した。

第 3 位　キリンホールディングス（総合評価点 76.1 点〔昨年度比＋3.0 点〕、昨年度第 3 位）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（82%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 2 位（91%）、**ESG 関連**が第 3 位（71%）、**経営陣の IR 姿勢等**（75%）、**自主的情報開示**（73%）が第 4 位となった。昨年度に比べて、5 分野のうち **ESG 関連**を除く 4 分野において得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 3 位、「IR 部門の機能」が同得点第 4 位、「社外取締役との対話」が第 7 位となった。これらに関連して、企業価値向上や ESG の重要性に対する経営陣の高い意識を評価する声が寄せられた。経営陣が自ら経営方針を決定し、投資家と直接対話を行っていることを評価する声や、マネジメントが IR 活動を積極的に活用し、投資家との対話を経営に活かそうとする姿勢の変化を評価する声もあった。IR 部門の機能については、事業領域や展開地域が幅広いにもかかわらず、IR 部門に十

分かつ正確な情報が集積されており、情報の粒度に不満を感じることなく対話できる点を評価する声が寄せられた。また、投資家のニーズに真摯に向き合い、有益かつ建設的なディスカッションが行えることを評価する声もあった。

③　**説明会等**においては、「説明会、インタビュー等における開示」が同得点第 1 位（昨年度同得点第 4 位）となり、昨年度に比べて得点率が大きく改善した。これに関連して、説明会やインタビューにおいて、定量面・定性面の双方から充実した説明や質疑応答が行われていることを評価する声が寄せられた。「説明会資料等における開示」は第 3 位であった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が第 2 位、「リモートツールによる情報提供」は第 3 位となり、共に 90%以上の高得点率であった。これらの結果、この分野において第 2 位となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」が第 2 位となった。「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、定性・定量の両面で進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していること」は第 5 位（昨年度第 3 位）となり、昨年度に比べて得点率が大きく下がった。「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コストの開示等）、あるべきバランスシート（政策保有、現預金を投資等に有効活用できているかの検証）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」は第 5 位であった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」が第 4 位、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」は同得点第 6 位であった。有益なイベントとして、R&D day を挙げる声があった。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（食品）

（単位：点）

順位	評価項目 ＼ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 34点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 18点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 8点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目3（配点 32点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	2802　味の素	83.8	28.9	1	14.0	4	7.4	1	27.0	1	6.5	2	1
2	2502　アサヒグループホールディングス	77.7	25.6	3	14.6	2	7.1	3	23.8	2	6.6	1	2
3	2503　キリンホールディングス	76.1	25.5	4	14.8	1	7.3	2	22.7	3	5.8	4	3
4	2264　森永乳業	73.3	28.2	2	13.9	6	6.6	7	20.1	4	4.5	10	3
5	1332　ニッスイ	70.7	24.9	5	14.1	3	6.1	17	19.4	8	6.2	3	7
6	2282　日本ハム	70.2	24.7	6	13.9	6	6.3	14	19.6	6	5.7	6	8
7	2871　ニチレイ	68.5	24.4	7	13.4	9	6.5	9	19.5	7	4.7	9	6
8	2269　明治ホールディングス	67.9	23.3	8	12.8	13	6.4	12	20.0	5	5.4	8	13
9	2229　カルビー	66.3	21.6	10	12.9	12	6.8	6	19.2	9	5.8	4	12
10	2897　日清食品ホールディングス	66.0	21.4	12	13.4	9	6.5	9	19.1	10	5.6	7	5
11	2914　日本たばこ産業	65.1	22.5	9	14.0	4	7.1	3	18.0	14	3.5	15	9
12	2809　キユーピー	63.8	21.6	10	13.6	8	6.5	9	18.5	11	3.6	13	10
13	2607　不二製油	61.5	20.8	13	11.8	15	6.2	15	18.3	13	4.4	11	11
14	2579　コカ･コーラ　ボトラーズジャパンホールディングス	60.7	19.9	14	11.6	16	7.0	5	18.4	12	3.8	12	15
15	2801　キッコーマン	55.2	18.4	15	11.2	18	6.4	12	16.2	15	3.0	19	18
16	2267　ヤクルト本社	54.1	16.0	18	12.6	14	6.6	7	15.8	16	3.1	18	16
17	2002　日清製粉グループ本社	53.7	17.7	16	11.6	16	6.2	15	14.6	17	3.6	13	14
18	2875　東洋水産	52.6	16.9	17	13.2	11	5.8	19	13.2	19	3.5	15	17
19	2587　サントリービバレッジ＆フード	47.1	14.1	20	10.4	19	6.0	18	13.9	18	2.7	20	19
20	2212　山崎製パン	44.3	14.8	19	10.4	19	5.2	20	10.7	20	3.2	17	20
	評価対象企業評価平均点	64.26	21.71		12.97		6.48		18.50		4.60		

2026年度の具体的評価項目および配点（食品）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（34点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣は、株価や資本コストを意識したIR活動を実施していますか。経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。また、経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**20**
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間の理解を深めることの重要性を認識していますか。また、そうした取組みを実行していますか。	**4**
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調や不祥事の有無にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（18点）	**配点**
(1)説明会、インタビュー等における開示	
・説明会、インタビュー等において、会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
(2)説明資料等における開示	
・説明会資料等において、決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**8**
3．フェア・ディスクロージャー（8点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか。	**4**
(2)リモートツールによる情報提供	
・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。	**4**
4．ESGに関連する情報の開示（32点）	**配点**
①非財務情報（ESG情報やScope3を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか。	**8**
②人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、定性・定量の両面で進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか。	**12**
③中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コストの開示等）、あるべきバランスシート（政策保有、現預金を投資等に有効活用できているかの検証）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか。	**12**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	**配点**
①携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していますか。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等。	**4**
②有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか。【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	**4**

食品専門部会委員

部　会　長	守田　　誠	野村證券
部会長代理	角山　智信	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	鎌田　　聡	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	ﾏｲｹﾙ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽ	ﾃｨｰ・ﾛｳ・ﾌﾟﾗｲｽ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ
	藤原　悟史	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	二見　哲史	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
	李　　想	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（19 名）

伊原　嶺	UBS 証券	角山　智信	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
奥下　諒	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
長田　佳三	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	畑澤　巧	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
鎌田　聡	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	福井　悠香	第一生命保険
高　英詞	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	藤原　悟史	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
佐々木　聡	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	二見　哲史	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
佐治　広	みずほ証券	松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
ﾏｲｹﾙ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽ	ﾃｨｰ・ﾛｳ・ﾌﾟﾗｲｽ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ	守田　誠	野村證券
篠崎　智明	QUICK	李　想	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
田畑　剛	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。